



学院時報

ご卒園ご卒業　おめでとうございます



学校法人聖ドミニコ学院
理事長・小学校校長 鈴木かな子

秋に葉を落とし、寒々とした冬木に小さな硬い芽がいっせいに芽吹くこの季節に、皆さんは卒業の喜びの日を迎えました。ご卒業おめでとうございます。

今年度、聖ドミニコ会は修道会創立八〇〇年という特別な年を迎え、学院全体でお祝いした恵みの年になりました。私たち教職員は子供たちと一緒に、また保護者の皆様と共にドミニコファミリーとしての絆を深めた日々となりましたことを感謝申し上げます。

三月は幼児・児童・生徒、全ての子供にとってひとつ区切りの時です。次のステップに移る子供たちは神から祝福をいただき、神の恵みに生かされ、新しい歩みの始まりとなるのです。

イエスは群衆を前にして、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。(マタイ7章7節)」と、話されました。それは新しい出発を踏み出す子供たちにとっても力強い励ましの言葉です。

（和規）

神はいつもご自分の計画の中で、その人にとつて一番良いものを用意してくださっています。私たちは神がお望みになることを謙虚に求め続けるのです。神は私たちが求める以上の大きな恵みもお与えになります。神様はいつも私たちの味方なのです。

ある日、高等学校の中央階段の踊り場で一篇の詩に出会いました。それは二十歳未満の青少年が罪を犯し、立ち直るために入所する施設・少年院を退所した方の心の思いを綴った詩です。

『なりたい』
心が壊れるほど 苦しくて、
優しい言葉をかけてくれる人を
捗したけれど、どこにもいない。
ふと思う。

優しい言葉をかけられるそんな
人間になりたい。
（和規）

素朴な一篇の詩から傷ついた心の悲しみ。そして、ほっとする心の安らぎを感じます。私たちも神との絶対的な信頼関係の中、自分の歩みが神の心に叶うようになります。「求め続け」「探し続け」「たたき続け」と、歩みを進めていくのです。

（和規）



幼稚園園長 森本 幸子

モントツソーリ

教育の目標は、大人になつたとき世界に平和をもたらす事ができる人を育てる

ことです。平和とは、単に戦争の反対ではありません。人間の心の中に調和を

創り出すこと、又人間の中にある愛と正義

の勝利こそが平和であると考えました。そ

して、モンテツソーリは平和の実現には教育が重要であると、その理論と実践方法

を示す活動に生涯を捧げました。亡くな

れて受賞には至りませんでしたが、二度ノーベル平和賞の候補になる程でした。

モンテツソーリ教育の平和教育は具体的な道が示されています。子どもの生命衝動

を大人が阻止するような環境にいると、子

どもは自分の無能感に押しつぶされ、自

己否定したり、攻撃的になつたりします。

逆に、子どもが自ら自分を構築できる要素

を備えた整えられた環境において、自然の

要求に従つて活動(運動)できると、自己

実現に至り、繰り返し実感できた子どもは

自己肯定感が育ち、消極性や攻撃性が除去

されるのです。モンテツソーリは、「手」

を使う運動は、具体物を扱いながら「運動

の統合」と「精神の統合」という二つの意

味を持つと考えました。十分手を使って活

動し集中することは、よりもなおさず心を

豊かにする活動であると考えたのです。現

代、脳科学で手を使うことで前頭前野が活

性化されることは明らかになっています

が、モンテツソーリは百年以上前に、子

どもの活動(運動)を通して気付いていた

のです。

未来へ向かって、強く優しく自由に、お

おしくゆかまし。

No.88

平成29年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校
中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL:<http://www.dominic.ac.jp>

T E L 022(222)6337

F A X 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

TEL・FAX 022(234)3615



中学校高等学校校長 高橋 延一

ドミニコの学び舎
を裏立つ卒業生達
と、伝統という名
のバトンを引き継
ぎ少し緊張気味の

後輩達の両者に、私が疲れて弱くなってしまった時に依り頼んでいる、最強の聖句をプレゼントします。

のです。私たちも整えられた環境と子どもの持つている力を信じる大人の援助の基、手を使い集中することを経験した子どもたちの中に、平和の兆を見ることがあります。私たちも達による平和の兆が生まれていることに希望を持ちたいと思います。

だから、キリストの力がわたしの内に宿るよう、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮屈、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときには、子どもの親離れを経験させてもらうと同時に、成長の喜びと別れの寂しさを味わわせてもらっています。この時期は、子どもの親離れを経験から人として大切な多くの事を学び、経験から大人として大切な多くの事を学び、あります。子どもたちが初めて出会う学校であります幼稚園では、集団生活を経験し、その後に、子どもが自ら自分を構築できる要素を備えた整えられた環境において、自然の要求に従つて活動(運動)できると、自己実現に至り、繰り返し実感できた子どもは自己肯定感が育ち、消極性や攻撃性が除去されるのです。モンテツソーリは、「手」を使う運動は、具体物を扱いながら「運動の統合」と「精神の統合」という二つの意味を持つと考えました。十分手を使って活動し集中することは、よりもなおさず心を豊かにする活動であると考えたのです。現代、脳科学で手を使うことで前頭前野が活性化されることは明らかになっていますが、モンテツソーリは百年以上前に、子どもの活動(運動)を通して気付いていたのです。

今、子どもたちの心にあるのは未來であり、過ぎし日々を思い傷傷に浸つていては私たち大人だけのようです。

正に聖書を学んだドミニコOGは無敵です。

未来へ向かって、強く優しく自由に、おおかるく・つよく・ただしくの教えをおこしゆかまし。

心に留め、いつも喜びすべての事に感謝しながら、神さまに信頼して、これから力強く自分の人生を歩んでほしいと願っています。

（和規）



幼稚園

外遊びの日



聖劇

「外遊びの日」は子ども達がとても楽しみにしている活動の一つです。いつもは、登園後お仕事（モンテッソーリ教育）を行いますが、その日は、登園してから昼食の時間まで外で体を沢山動かして遊んでいます。子ども達に人気の遊びは、砂遊びを始めに鬼ごっこやサッカー、かけっこ等多岐に渡ります。中でも「ゴーカート」という乗り物が人気で、自分の手や足の力を使って動かさなければ前に進むことができず、始めは苦戦する子どもも多くいますが少しずつ慣れてくるとスムーズに漕ぐことができるようになります。出来ない子には周りの子ども達が教えてあげている姿も見られ、優しさを感じられる事もあります。雨天時も限られた空間でかけっこやフラーブ、マット運動等体を動かして遊べるよう環境を整えています。

「外遊びの日」は、クラスや年限での活動の垣根を越えて色々なお友達と出会える場であります。

また、協調性や協力性も育みながら楽しく過ごしています。

十月二十八日に収穫祭が行われました。祭壇には

収穫祭

沢山の野菜や果物の他に、年長児が畑で収穫したさつま芋とそのさつま芋を使って年中児が作ったストレートポテトをお捧げしました。収穫祭には多くの保護者の方も参加され、皆さんで収穫の喜びを感じながら神様に感謝の祈りを捧げ、賛美することができます。そのあと先生方による「四つの種」の劇を見て、子ども達は「神様が大きくてくれたんだね!!」と嬉しそうに話していました。

今年は聖ドミニコ修道会八〇〇周年記念の年であり、子ども達とさつま芋やストレートポテトを持って修道院に訪問し、「八〇〇周年おめでとうございます。」とお祝いをしながら、収穫の喜びをおすそ分けしてきました。また、いつも近くで見守って下さる民生委員の方にお届けする事ができました。子ども達は皆さんから「ありがとう」と言葉をかけられて、顔がほころび、日々に「喜んでくれたね♪」と喜びを分かち合えた事がとても嬉しそうでした。



おもちつき

新年を迎えた喜びと冬休みの楽しかった思い出いっぱいの子ども達と一緒に三学期がスタートしました。まず始めた大きな行事は一月十三日に行われた「お餅つき」でした。今回初めて一関市の出前餅つき隊の方にご協力して頂きました。餅つき隊の皆様は、日本の伝統行事である餅つきの伝承のため、日本だけではなく世界にも渡り熱い思いをもってご活躍されています。

お餅つき当日、ホールにセッティングされた臼と杵を回み、興味津々の子ども達。餅つき隊の方に見本をして頂き、子ども達も「よいしょ!!よいしょ!!よいしょ!!」と力一杯お餅をつきました。みんなで力をあわせてついたお餅はみんなことお雑煮にして、みんなで軽く頂きました。

「今までで一番おいしい!!」「苦手だったけど食べられた!!」「おかわり!!」など

お餅つきの楽しさやお餅の味わいの方を丁寧に教えて下さった出前餅つき隊の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。



発表会～新級に向けて～

〈年少〉

子どもたちが大好きなお話を一つで見る「大きなかぶ」の劇を行いました。運動会の頃は、まだたちの思いの行動運動会の頃は、まだたちの思いの行動運行いました。その後の発表会の頃には友だちと台詞のやり取りを楽しんだり、以前にも増して友だちと一緒に遊んでいる姿が見られました。今は手伝ってもらっていたことも、「自分でやる！」と年中さんに向けて、できることは自分でする練習をしているところです。

今年は「ブレーメンの音楽隊」の劇を行いました。ロバ・ネコ・イヌ・ニワトコやドロボーの役になりきって、物語を友だちと楽しみながら練習してきました。そして自分の役だけではなく、お友だちの役にも目を向けてみんなで劇を成功させることができました。発表会の後は、友だち同士の関わりが増えたことで、みんなで楽しく遊べるようになつた反面、自分の気持ちを伝えることや相手の気持ちを考えることの難しさを感じているようです。年長に向けて少しすつ相手を理解していくけるよう、援助していきたいと思います。

〈年長〉

ぞれの役に責任を持つて、マスの意味を考えながら取り組むことができました。もうすぐ卒園する年長児。小さいお友だちのお世話やどんな時も、「お手伝いしますよ！」と頗もしい姿を見せてくれました。体だけではなく、沢山のことにチャレンジして心も大きく大きく成長しました。小学校への期待に胸を大きく膨らませている子どもたちが自分の夢に向かって一歩ずつ歩んで行けますように…。

北仙台幼稚園

十二月に行われた発表会では「聖劇」を行いました。一人ひとり、それ



作品展

今年の作品展のテーマは「自然」この自然を「地・森林・海・宇宙」というジャンルに分け、この中で全ての生きものは生かされていることを考えて作りました。簡単な作成ことができず苦労した作品もありましたが、その分できた時の喜びは大きかったようです。また大きな力を合わせることの大切さを改めて感じていたようです。作品展当日は、自分が作った作品を家族の方々に見ていただき、誇らしげな子どもたちの笑顔が園内にあふれています。



小さな体に大きめの制服を着て、期待と不安で迎えた入園式から三年。心も体も成長した娘はもうすぐ卒園を迎えます。年少の時から我慢強く登園時もほとんど泣く事が無かつた娘。担任の先生からたまにひつそり泣いている事がありますと聞き、小さいながらも頑張っている姿を愛おしく感じていました。それでも優しい先生や面白い先生に出会い、お友達と遊ぶ楽しさを知り毎日の出来事を笑顔で話す彼女を見て、楽しく園生活を送っているのだろうと安心して見守る事ができました。

幼稚園の統制学級は優しさと思いやりの精神を育む事が出来たと強く実感しています。優しく手を差し伸べる娘の姿はすっかりお姉さんで、とても微笑ましく頼もしく見えました。子供達を正しく導き、見守り、支えて下さった先生方へ、日頃より子供の気持ちに寄り添い愛に溢れるご指導をいただき心より感謝申し上げます。

かかるくつよく・ただしく育つた子供達が先生方の教えを胸に健やかに成長していくと信じております。

卒園の時を迎えて

武田 美紀

豆まき

二月三日に豆まきを行いました。豆を投げました。とても怖かつたけど上手に鬼退治ができました。鬼たちから話を聞いてみると、みんなと仲良くしゃべったのかー！と安心！優しく鬼たちを受け入れてくれた子どもたちは、握手をして仲直りをしました。一年を健康に過ごせるように、楽しく豆まきができましたね！

雪遊び

子どもたちが登園するなり目に飛び込んできたのは、雪のベンキ屋さんが染めていつた真っ白な園庭！「先生、今日は雪遊びできる？」と目を輝かせて聞いてきました！子どもたちはスキーウェアに着替えて元気に駆け出していくます。積雪量が少ない為小さな雪だるま作りや雪合戦をして楽ししそうに遊んでいました。



平和学習



六年生は、修学旅行で広島に平和学習を行います。国語や社会などで事前学習をし、和平学習に臨んだ六年生。「戦争とは何か」「原爆とは何か」そして、今、私たちが「平和」に向けて身近なところからできることとは…。子供たちが真剣に平和に向き合いました。

小学校

も、思いやりの心を持てば、小さな幸せを分けることができる。
僕は、これからも「思いやりの心」を大事にしていきたい。

平和学習を終えて

内田 愛梨佳

平和学習で学んだこと

松野 理玖

「平和とは何か」を考えた。広島に行つて、資料館や碑、竹内さんの話から、平和について学んだ。平和とは、争いがなく、一人一人が安心した心の状態にあることだと思った。これが日常生活においてはめると、一人一人が小さな争いをなくせる心を持ち、争いがないだけではなく、人ととのつながりが深まつていていた。その状態に近づくために、自分はどのように争いが起きる原因は、特に、差別、怒り、考えの対立の三つだと思う。原因が差別の場合は、他人から仲間はずれにされた人が、仲間はずれにした人に立ち向かつた時に起こる争い。怒りの場合は、ある人に恨みを持っている人が、怒りを爆発させて起こる争い。考えの対立の場合は、異なる考えを持つ人が、自分の考えの正しさを示すために起きた争い。

この原因をなくすためにはどのようにしたらしいのだろうか。僕は、「他人に対して、いつも思いやりの心を持つことの大切」と、考えた。なぜなら、思いやりの心を持つべきだ。もし、争いが起きたとしても、相手のことを考え、負の感情を抑えることができるからだ。争いがないときに

僕は、広島へ行き、平和の大切さと、戦争がどれほど苦しいことで、人々にどのような影響を与えたのかが分かりました。佐々木楨子さんは被爆後九年して、白血病を発症し八ヶ月後に十二才で短い生涯を終えました。でも、闘病中少しでも長く生きたいという思いで、千羽鶴を折り続けました。千羽鶴を折ることにより、最後まで諦めないで、希望を持ち続けられたのだろと思いました。僕は、内さんは、「小さなけんかが大きな戦争をもたらすんだよ」と言っていたので、私もなるべくけんかをしないように心がけたいです。また、言葉や暴力で人を傷つけてしまうのも、けんかのもとだと私は思います。二つ目は、相手がいやなことは、人にはない。これは一年生の時から言われているのですが、重い言葉をいつまでも言っている事に感謝するとともに、一人一人の命を大切にし、決して、命がなくなることのないよう、また自分の命を自分で守れるようにします。友達が「仲間はずれ」や「無視」など悲しい、辛い目にあっている時、友達と協力し、解決する事が大切だと思います。世界の各国同士の争いも、友達とけんかして仲直りする時と同じように、国同士がよく話し合って、相手を思いやる気持ちを持って、戦争がなくなると嬉しいです。だからそれを防ぐには、意識を持って貰う事で、豊かな人になる」事です。心が貧しかったら、人に気をつけようと思います。三つ目は、「心豊かな人になる」事です。私もこれでしまうかもしれません。そうならないためには、自分自身やみんなが心豊かな人にならなければ、太平洋戦争のような悲劇がまた起こるかもしれません。だから、心豊かな人にならなければなりません。だから、心豊かな人にならなければなりません。そうならないためには、自分自身やみんなが心豊かな人にならなければなりません。それと共に、合唱団員を中心としたクリスマススタブローが披露されました。

まことに大変恐ろしい。戦争は多くの人の大切な命を奪い、人々の心を傷つけてしまう。まず今、僕ができる事は友達と仲良くすることだ。けんかや争いのないクラスになるといふと思う。お互いを尊重したい、思いを伝えていけば、きっとクラスが一つになると

平和とは

畠浦 健汰

僕は、広島へ行き、平和の大切さと、戦争がどれほど苦しいことで、人々にどのような影響を与えたのかが分かりました。佐々木楨子さんは被爆後九年して、白血病を発症し健康で自由なく生きています。今までその學習で改めて、平和に生活している事に感謝することに感謝する事はありませんでした。今までその學習で改めて、平和に生活している事に感

今回、平和学習を終えて、現在平和な世の中に生きている僕たちはとても幸せなのだと思つた。この平和な世の中をずっと続けていくことが僕たちの使命だと思う。このような学習をする機会があつてうれしく思う。

博士役を通して

五年 千葉 翔子

クリスマス礼拝会

ご存知のとおり、クリスマスはイエス・キリストが誕生した十二月二十五日です。二十五日が冬休み中のので、クリスマスの本日の意味を考えるために、本校では十二月二十一日にクリスマス礼拝会を行いました。旧約聖書創世記の人間の罪のはじまりから

私は礼拝会の聖劇で、贈り物である薬を待ち、星に導かれた幼子イエス様を拝みにかけつけた博士を演じました。没薬を手に歌いながら歩くため、思うよう

私は、平和について出来る事を考えました。一つ目は、なるべくけんかをしないことです。もちろんけんかはして良いのですが、けんかのしきもいけないと思います。語り部の竹内さんは、「小さなけんかが大きな戦争をもたらすんだよ」と言っていたので、私もなるべくけんかをしないように心がけたいです。また、言葉や暴力で人を傷つけてしまうのも、けんかのもとだと私は思います。二つ目は、相手がいやなことは、人にはない。これは

要なことだと思います。講話の最後に竹内さんが、「自分がいやな事は、相手もいやなんだよ」と言っていました。もし相手がいやなことをしたら、相手にいやがられますし、最悪戦争にまで发展してしまうかもしません。ですからそれを防ぐには、意識を持って貰う事で、豊かな人になる」事です。心が貧しかったら、人に気をつけようと思います。三つ目は、「心豊かな人になる」事です。私もこれでしまうかもしれません。そうならないためには、自分自身やみんなが心豊かな人にならなければなりません。それと共に、合唱団員を中心としたクリスマススタブローが披露されました。

羊飼いの役で

四年 大越 悠杜

私は礼拝会の聖劇で、贈り物である薬を待ち、星に導かれた幼子イエス様を拝みにかけつけた博士役を通して、何事にも取り組んでいきたいと思います。また、来年は最高学年になるので、周りを正しい心でひっぱつていけるリーダーとして、何事にも正しい心を日々の学校生活の中でも実践していく自分でいたいと思います。まだ、来年は最高学年になるので、周りを正しい心で

私は、平和について出来る事を考えました。一つ目は、なるべくけんかをしないことです。私たちが「平和」に向けて身近なところからできることとは…。子供たちが真剣に平和に向き合いました。

僕ができること

中條 陽賀

僕が平和学習を終えて学んだことは、命を大切にしなければいけないということだ。竹内さんは「平和とは命」と言っていた。ではこの世の中を平和にするためにはどうしたらいいのだろう。そのためには一人一人が努力する事だ。そのためには一人一人が努力する事だ。そのためには一人一人が努力する事だ。

ヨゼフ役に抜擢され、改めてヨゼフの人柄を理解するところから始まりました。ヨゼフは誠実で心の広い方です。身ごもつていているマリア様をいたわり、寄り添い、愛に溢れた方です。ですから、優しさに満ち溢れた様子が表れるように心がけながら私は

練習の時から、歌声でも羊飼いがどんな人間かを伝えられるように歌いました。「自分にはできる」と自分の力を信じて取り組みました。

クリスマスプレゼント

六年 加藤 みゆら

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように澄み切つた声で歌うことができ、満足でした。

私は、平和について出来る事を考えましたが、最も大切な命は、たった一つしかありません。それに、私は神様から選ばれた人ですので、もし自死などをしてしまったら、神様やお父さんお母さんなどにも失礼だと思いません。私はこれからも命を大切にして、平和を願う人になりたいです。

ヨゼフ役に抜擢され、改めてヨゼフの人柄を理解するところから始まりました。ヨゼフは誠実で心の広い方です。身ごもつていているマリア様をいたわり、寄り添い、愛に溢れた方です。ですから、優しさに満ち溢れた様子が表れるように心がけながら私は

練習の時から、歌声でも羊飼いがどんな人間かを伝えられるように歌いました。「自分にはできる」と自分の力を信じて取り組みました。

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように澄み切つた声で歌うことができ、満足でした。

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように澄み切つた声で歌うことができ、嬉しかつたのです。

私は、平和について出来る事を考えましたが、最も大切な命は、たった一つしかありません。それに、私は神様から選ばれた人ですので、もし自死などをしてしまったら、神様やお父さんお母さんなどにも失礼だと思いません。私はこれからも命を大切にして、平和を願う人になりたいです。

ヨゼフ役に抜擢され、改めてヨゼフの人柄を理解するところから始まりました。ヨゼフは誠実で心の広い方です。身ごもつていているマリア様をいたわり、寄り添い、愛に溢れた方です。ですから、優しさに満ち溢れた様子が表れるように心がけながら私は

練習の時から、歌声でも羊飼いがどんな人間かを伝えられるように歌いました。「自分にはできる」と自分の力を信じて取り組みました。

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように澄み切つた声で歌うことができ、嬉しかつたのです。

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように澄み切つた声で歌うことができ、嬉しかつたのです。

私は、平和について出来る事を考えましたが、最も大切な命は、たった一つしかありません。それに、私は神様から選ばれた人ですので、もし自死などをしてしまったら、神様やお父さんお母さんなどにも失礼だと思いません。私はこれからも命を大切にして、平和を願う人になりたいです。

ヨゼフ役に抜擢され、改めてヨゼフの人柄を理解するところから始まりました。ヨゼフは誠実で心の広い方です。身ごもつていているマリア様をいたわり、寄り添い、愛に溢れた方です。ですから、優しさに満ち溢れた様子が表れるように心がけながら私は

練習の時から、歌声でも羊飼いがどんな人間かを伝えられるように歌いました。「自分にはできる」と自分の力を信じて取り組みました。

私は羊飼いの役で、羊飼い本番は、羊飼いの正直で誠実な人柄が出来るように

春に想う



中学校主任 田嶋 智子

樹木の生長はいつも私たちを励ます。春に芽吹き花の季節には美しく咲き誇り、冬の寒さに耐えた後、再び若葉に包まれる姿には命の力強さを感じます。一日の変化は小さなものであっても、頼りにかつた若木が日々を乗り越えることでしっかりと根を張り、たくましい枝を広げる成長ぶりはそれを見守る私たちに年月が流れることを教えてくれます。

三年生の皆さん、卒業おめでとう。土の中でじわじわと伸びた根は外から見ることはできません。水を求めて遠くまで伸びた根。これから成長する大きな幹を支えるしつかりとした根、それはとても地味で人目に付かない存在です。でもしつかりとした根があるから木は大きく育つことができます。嵐が来ても吹き飛ばされない強い木になります。

ドミニコ学院中学校での三年間であなた達が成長させた心と体は、これからあなた達を支えるしつかりとした根になるはずです。樂しかった思い出は未来を強く支えてくれます。これからの中学生生活が幸せに満ちるものになりますように心からお祈りしています。感謝と奉仕の気持ちは、時間ではなく、楽しいな、と思ったその瞬間だということが分かりました。

中学校高等学校

楽しかった中学校生活

満開の桜に迎えられた入学式。

あれから三年の月日が流れました。

今年卒業する三年A組十一名が、聖ドミニコ学院中学校で体験したたくさんの出来事の中から、心に残る一番の思い出を綴りました。

修学旅行の鹿

相澤ゆずか

十二月上旬に修学旅行に行つた時、奈良公園で鹿に会いました。百円で買った鹿せんべいを与え、可愛がりました。宮城では体験できないことを、奈良で体験することが出来たので、本当に良い思い出となりました。

修学旅行

石井 美緒

修学旅行で、奈良、神戸、伊勢志摩に行きました。その中で特に印象に残っていることは、奈良に鹿がたくさんいたことです。鹿に鹿せんべいをあげたりしました。

充実した時間

石本 美依菜

私はこの学校に途中から来たため、みんなと過ごした時間は実際は短かいです。でも、それを感じないぐらい充実した時間でした。大切なドミニコ学院中学校での三年間であなた達が成長させた心と体は、これからあなたのあなた達を支えるしつかりとした根になるはずです。樂しかった思い出は未来を強く支えてくれます。これからの中学生生活が幸せに満ちるものになりますように心からお祈りしています。感謝と奉仕の気持ちは、時間ではなく、楽しいな、と思ったその瞬間だということが分かりました。

体育のダブルス

鈴木 麻理亜

体育で、私は初めてラケット片手に友達をはたいてしまった。バドミントンのダブルスで仲良しの子と組んだが、息が合わず友達がいるのは、時間ではなく、楽しいな、と思ったその瞬間だということが分かりました。

ルミナリエ

太田 光莉

三年生で行つた修学旅行では、神戸にある興味を示すイルミネーション、ルミナリエがありました。赤、青、緑、黄、紫の光が灯された建物の中を通りました。中学校最後の行事で幻想的な体験ができ嬉しかったです。

何もない日

佐藤花寿美

この三年間沢山の行事がありました。しかし、私は何もない日が好きでした。皆と一緒に学び、休み時間に他愛のない会話をする。そんな当たり前の日常が私にとって一番の宝物であり思い出であります。最高の三年間でした。

出会いの時

白倉向日葵

桜が校庭で満開の頃、私達の入学式がありました。最初はそれこそ人數が少なくて不安だったのですが、二年、三年と時間が過ぎ、私達三年A組は家族のような存在になっていました。中学校生活をこの十一人と過ごせて良かったです。

球技大会

関 ひより

三年目の球技大会で、張り切つて応援しました。ですが、張り切り過ぎて、のどを痛めてしまい、救護室に行き体温を測つたところ、若干の熱がありました。今年最後の球技大会で、変な思い出になつてしまいましました。

楽しかった部活動

洞口 莉佳

自慢話のようですが、中学校三年間のうち三年連続で放送コンテストで賞をいただけ、自分が予想していなかった賞よりも上の賞をいただけたり前の日常が私にとって一番の宝物であり思い出でもあります。最高の三年間でした。

痛かった運動会

山田 真央

ドミニコ祭。中学校最後といふことで、私達はジュースとポテトのお店を出しました。難しい事もありましたがみんなで工夫し、成功させたのがまたみんなで工夫し、成功させたのは、とても楽しく、素晴らしい思い出になりました。

幸せな思い出笑い

三年A組担任 小野 景子



朝、急いで聖書ノートにコメントを書き込む姿も、ランチルームで

ありがとうございました。

教え子第一号のみんなへ。

「卒業」はひとつ終わりのかけです。でも、何かが終わることは何かの始まりであるといいます。今、みんなの心に満ちるのはどんな気持ちですか?不安なことは多いけれど、その不安の分だけ何かが変わつてきます。十一人なら大丈夫です。胸にひそかに抱く今はまだ蕾の「夢」を追いかけて、一歩ずつ前へ歩んで行けますように。

でもね、みんなにふざけて笑い合った教室を離れるのはやつぱりちょっと寂しいよ!

あなた達に会えて最高でした

高校三年主任・四組担任 織田 有子



いくぞ～お～。
この勢いで三年生
は、体育の授業も
人一倍元気でした。

た。一年生の時の運動会、球技大会は先輩に負けたくない、勝ちたいという気持ちだけで、闘志がみなぎつて戦っていましたね。三年生になると心に余裕ができ、勝ちたいという気持ちだけではなく、後輩を思いやる戦いも出来て、そんな所にもあなたの達の成長を感じ、先生方も頼もしく感じました。

私は学年主任でもありましたが、三年四組担任で保健体育を教えています。我が三年四組は、とにかく元気で勢いがすごく、闘志がみなぎっています。体育の授業でも同様で、これは部活動の試合ではないのにと思ひながら、みんなのパワ～に圧倒されました。いくぞ～お～。運動会、球技大会、勝ちたいという勢いが、すごかったですね。その勢いがあつたからこそ、それぞれの進路まで繋がつたと思っています。

卒業おめでとうございます。三年間いつも一緒にいたね。これからいろいろ環境が変わつて、辛い時、悲しい時もあるでしょうが、三年間で大きく成長したみんなのことをいつでも、先生達は見守り応援しています。

あなた達に会えて最高でした。
ありがとうございます。

希望に満ちた春到来

三年一組担任 前田 朱実



卒業おめでとうございます。今年の桜は努力して進学希望を達成した

皆さんに、これから的生活が幸せなものでありますように、と咲くことでしょう。きっと今まで見た桜より何倍も美しく見えることでしょう。私から皆さんに最後のお願いがあります。保護者の方に感謝の気持ちを伝えましょう。いつも皆さんの幸せを願い、誰よりも心配して下さっています。

四月からの新生活が充実した生活になるよう祈っております。

ご卒業おめでとうございます

三年二組担任 鈴木 伸



ご卒業おめでとうございます。
この二年間を振り返ると助けられ

たことの方が多かつた気がします。そして、皆さんがクラスHRやドミニコ祭など各行事の時に見せる型にはまらないアイディアには本当に驚かされました。

これから進んでいく社会では規則を守つて行うことや自らが考え独創性を持つて行動することが大事にななつてきます。失敗を恐れずチャレンジする。

卒業を迎えて

三年三組担任 石川 裕之



三年生の皆さん
ご卒業おめでとうございます。今、胸の中には三年間

の様々なたくさんの思い出があると思います。
楽しかったこと、辛かったことたくさんありましたね。全ての経験を経て、皆さんは成長しました。これから先多くの困難があると思いますが、「やれば出来る」と自分を信じて挑戦し続けてください。
この一年、皆さんと多くの思い出、経験を共有でき、楽しかったです。嬉しかったです。本当にありがとうございました。

あっという間の3年間。

楽しかったこと、辛かったこと

様々な思いを胸に卒業する生徒を代表して前生徒会長に
卒業生を送る在校生を代表して生徒会長に

それぞれの思いを綴ってもらいました。

三年間を振り返って

前生徒会長 五十嵐結香

高校3年間というのは、本当に長いようで短いものでした。

初めて我が校の桜を見て感動を覚えた日から、楽しい日も辛い日も乗り越えて、これから4度目の春を迎えようとしています。3年間本当に色々なことがありました。中学校よりさらに難しい授業に必死についていく中で、時に先生方の深い愛情を感じたこと、部活動で先輩の偉大さや後輩を指導することの難しさを知ったこと、生徒会長として学校を引っ張っていくことの責任の大きさ。そして、笑って泣いて、時にはぶつかり合った友人ととのかけがえのない絆。すべてが大切な宝物であり、私の高校3年間を築いてくれています。そして、これらの思い出は、勇気や自信へと姿を変え、これから日々を支えてくれるのだと思います。

3年間、私と関わってくれた方々に感謝申し上げたいと思います。

ご卒業おめでとうございます

生徒会長 早坂 瑞季

様々な場面で多くの先輩方にお世話していただきました。そのようないつもよくしてくださった先輩方に、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。と言いましても、本当は寂しく悲しい気持ちで、頼もしい先輩がご卒業されることを素直に喜べずにいる部分もあります。

今、私たち2年生は何事にも「最後」という言葉が付き始めました。卒業までのカウントダウンが既に始まったように感じています。1年後、私たちが卒業生になったとき、先輩方のように良い意味で後輩を寂しい気持ちにさせられるような存在になりたいです。

卒業生の皆様の更なる飛躍を、在校生一同お祈り申し上げます。

感謝の心いつまでも

中学生と高校生は、学年単位でもボランティア活動に取り組んでいます。

毎年秋の芋煮のシーズンには、学校近くの牛越橋周辺の広瀬川河川敷で中学生と高校1年生が、芋煮の後に残されたゴミを拾います。広瀬川周辺の自然と触れ合いながら、環境保護へ取り組みます。

高校2年生になると、仙台市青葉区芋沢にある社会福祉法人庄慶会「特別養護老人ホーム洛風苑」へクラス単位で出掛けます。お年寄りとの交流会、介護のお手伝い、勤労奉仕などを通してたくさんのこと学ばせていただきます。

高校3年生は、2年生でお世話になった洛風苑の方々への感謝を込めて、白いタオルとティッシュペーパーを持ち寄り、お年寄りの方々へ使っていただきため、洛風苑に届けています。「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコによる福音書 12:31)というイエスの言葉を、卒業しても忘れず実践するためです。



今年もたくさんのタオルとティッシュのご寄付、ありがとうございました。

